

(様式第10)

5 昭大病発第19号

令和 5 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人昭和大学

理事長 小口勝司

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
氏名	学校法人昭和大学 理事長 小口勝司

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

昭和大学病院
--------

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
電話(03)3784-8000 (代表)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="checkbox"/>	1呼吸器外科	<input type="checkbox"/>	2消化器外科	<input type="checkbox"/>	3乳腺外科	<input type="checkbox"/>	4心臓外科
<input type="checkbox"/>	5血管外科	<input type="checkbox"/>	6心臓血管外科	<input type="checkbox"/>	7内分泌外科	<input type="checkbox"/>	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="checkbox"/>	1精神科	<input type="checkbox"/>	2小児科	<input type="checkbox"/>	3整形外科	<input type="checkbox"/>	4脳神経外科
<input type="checkbox"/>	5皮膚科	<input type="checkbox"/>	6泌尿器科	<input type="checkbox"/>	7産婦人科	<input type="checkbox"/>	8産科
<input type="checkbox"/>	9婦人科	<input type="checkbox"/>	10眼科	<input type="checkbox"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/>	12放射線科
<input type="checkbox"/>	13放射線診断科	<input type="checkbox"/>	14放射線治療科	<input type="checkbox"/>	15麻酔科	<input type="checkbox"/>	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
<input type="checkbox"/>	1小児歯科	<input type="checkbox"/>	2矯正歯科	<input type="checkbox"/>	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	性病科	3	臨床検査科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0	0	0	0	815	815

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	573	13.52	707.4	看護補助者	8	診療エックス線技師	0
歯科医師	6	0.8	6.8	理学療法士	16	臨床検査技師	57
薬剤師	77	3	80	作業療法士	10	衛生検査技師	0
保健師				視能訓練士	0	その他	0
助産師	65		65	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	938	4.8	942.8	臨床工学士	28	医療社会事業従事者	5
准看護師				栄養士	1	その他の技術員	14.8
歯科衛生士	3		3	歯科技工士	0	事務職員	124
管理栄養士	6		6	診療放射線技師	55	その他の職員	1.6

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	43	眼科専門医	1
外科専門医	49	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	1	放射線科専門医	18
小児科専門医	34	脳神経外科専門医	16
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	24	救急科専門医	11
		合計	265

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 病 院 長 相 良 博 典 ) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成27年4月1日～ 医療安全管理対策委員会 委員  
 令和2年4月1日～ 医療安全管理対策委員会 委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	594 人	0 人	594 人
1日当たり平均外来患者数	1434.9 人	51.7 人	1486.6 人
1日当たり平均調剤数	6150		剤
必要医師数	148.1		人
必要歯科医師数	2.6		人
必要薬剤師数	76.9		人
必要(准)看護師数	346.21		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	925.6 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	51 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 71.89 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 4 台		病床数	6 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 22.7 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	51.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動生化学検査装置(BM6010)		
細菌検査室	14.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌検査装置(BACTEC-FX)		
病理検査室	91.4 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	凍結マイクローム装置(ライカCM1950)		
病理解剖室	97.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台・冷蔵庫・光触媒環境浄化装置(SSC-75hi-Y)		
研究室	20243 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	5339.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 16 室	收容定員	2593 人	
図書室	1525 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数	350000 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.1	%	逆紹介率	59.0	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		33,844		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		25,440		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,444		人
	D: 初診の患者の数		43,115		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	無	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院長		医療に関する学識経験者	無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
昭和大学病院ホームページ	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

難病の患者に対する医療等に関する法律第5条第1項に規定する指定難病

番号	病名	患者数	番号	病名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	58	特発性大腿骨頭壊死症	19
2	筋萎縮性側索硬化症	6	59	下垂体性ADH分泌異常症	4
3	脊髄性筋萎縮症	3	60	クッシング病	2
4	進行性核上性麻痺	2	61	下垂体前葉機能低下症	14
5	パーキンソン病	55	62	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
6	大脳皮質基底核変性症	1	63	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
7	重症筋無力症	16	64	アジソン病	3
8	多発性硬化症/視神経脊髄炎	18	65	サルコイドーシス	25
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	8	66	特発性間質性肺炎	6
10	クローウ・深瀬症候群	1	67	肺動脈性肺高血圧症	11
11	多系統萎縮症	3	68	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4	69	リンパ管筋腫症	1
13	もやもや病	17	70	網膜色素変性症	1
14	全身性アミロイドーシス	2	71	原発性硬化性胆管炎	1
15	神経線維腫症	4	72	自己免疫性肝炎	32
16	天疱瘡	34	73	クローン病	37
17	表皮水疱症	1	74	潰瘍性大腸炎	122
18	膿疱性乾癬(汎発型)	6	75	好酸球性消化管疾患	1
19	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	76	チャージ症候群	2
20	中毒性表皮壊死症	1	77	筋ジストロフィー	2
21	高安動脈炎	15	78	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
22	巨細胞性動脈炎	18	79	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
23	結節性多発動脈炎	25	80	神経細胞移動異常症	2
24	顕微鏡的多発血管炎	54	81	三尖弁閉鎖症	3
25	多発血管炎性肉芽腫症	51	82	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4
26	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	83	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	12
27	悪性関節リウマチ	13	84	ファロー四徴症	19
28	パージャール病	1	85	両大血管右室起始症	12
29	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	86	エプスタイン病	2
30	全身性エリテマトーデス	278	87	急速進行性糸球体腎炎	11
31	皮膚筋炎/多発性筋炎	102	88	一次性ネフローゼ症候群	61
32	全身性強皮症	38	89	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
33	混合性結合組織病	29	90	紫斑病性腎炎	1
34	シェーグレン症候群	96	91	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3
35	成人スチル病	26	92	オスラー病	1
36	再発性多発軟骨炎	2	93	閉塞性細気管支炎	1
37	ベーチェット病	36	94	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
38	特発性拡張型心筋症	14	95	グルコーストランスポーター1欠損症	1
39	肥大型心筋症	12	96	尿素サイクル異常症	1
40	再生不良性貧血	22	97	家族性地中海熱	1
41	自己免疫性溶血性貧血	9	98	強直性脊椎炎	8
42	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	99	骨形成不全症	1
43	特発性血小板減少性紫斑病	62	100	軟骨無形成症	2
44	血栓性血小板減少性紫斑病	7	101	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
45	原発性免疫不全症候群	9	102	左肺動脈右肺動脈起始症	1
46	多発性嚢胞腎	14	103	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1
47	黄色靱帯骨化症	4	104	22q11.2欠失症候群	3
48	後縦靱帯骨化症	16	105	修正大血管転位症	4
49	広範脊柱管狭窄症	1	106	完全大血管転位症	4
50	ウエスト症候群	2	107	単心室症	8
51	スタージ・ウェーバー症候群	1	108	左心低形成症候群	8
52	結節性硬化症	1	109	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	2
53	家族性良性慢性天疱瘡	1	110	総排泄腔遺残	1
54	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	22	111	胆道閉鎖症	1
55	歌舞伎症候群	2	112	嚢胞性線維症	2
56	多脾症候群	1	113	IgG4関連疾患	22
57	好酸球性副鼻腔炎	49			

疾患数	113
合計患者数(人)	1,749

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・ハイリスク分娩等管理加算
・救急医療管理加算1・2	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算1
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算2(20対1)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1)(補助者5割以上)、夜間急性期看護補助体制加算(100対1)、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算	・データ提出加算2 イ
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・入退院支援加算1・3(入院時支援加算)
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算(個別栄養食事管理加算)	・救命救急入院料1(小児加算)(救急体制充実加算1)(早期離床・リハビリテーション加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料1(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・栄養サポートチーム加算	・特定集中治療室管理料3(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・医療安全対策加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
・感染防止対策加算1(指導強化加算)	・総合周産期特定集中治療室管理料1・2(成育連携支援加算)
・患者サポート体制充実加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症患者初期支援充実加算	・小児入院医療管理料1(プレイルーム加算)(養育支援体制加算)
・報告書管理体制加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2に規定する施設基準	・人工中耳植込術、人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来栄養食事指導料(注2外来化学療法実施患者の栄養食事指導を行う場合)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・糖尿病合併症管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料イ	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・がん患者指導管理料ロ	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・がん患者指導管理料ハ	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・がん患者指導管理料ニ	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来緩和ケア管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた再建手術(乳房切除後)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腎代替療法指導管理料	・同種死体肺移植
・一般不妊治療管理料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料1	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域連携小児夜間・休日診療料2	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・地域連携夜間・休日診療料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・院内トリアージ実施料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的な大動脈弁置換術)
・外来放射線照射診療料	・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・ニコチン依存症管理料	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))
・療養・就労両立支援指導料(注3に掲げる相談支援加算)	・磁気ナビゲーション加算
・がん治療連携計画策定料	・経皮的な中隔心筋焼灼術
・外来排尿自立指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・薬剤管理指導料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・医療機器安全管理料1	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・医療機器安全管理料2	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・歯科治療時医療管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)皮下連続式グルコース測定	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・経皮的な下肢動脈形成術
・遺伝学的検査	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)

施設基準の種類	施設基準の種類
・染色体検査の注2に規定する基準	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・骨髄微小残存病変量測定	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・先天性代謝異常症検査	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・体外衝撃波胆石破碎術
・検体検査管理加算(I)	・腹腔鏡下肝切除術
・検体検査管理加算(II)	・生体部分肝移植術
・遺伝カウンセリング加算	・体外衝撃波膵石破碎術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・胎児心エコー法	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ヘッドアップティルト試験	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・神経学的検査	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

施設基準の種類	施設基準の種類
・補聴器適合検査	・同種死体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・膀胱水圧拡張術およびハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・センチネルリンパ節生検	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・精密触覚機能検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算1	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算3	・埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・冠動脈CT撮影加算(64列以上のマルチスライス型の機器によるCT撮影)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外傷全身CT加算(64列以上のマルチスライス型の機器によるCT撮影)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・心臓MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・乳房MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭部MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・全身MRI撮影加算(3ステラ以上の機器によるMRI撮影)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・胎児輸血術
・外来化学療法加算1	・体外式膜型人工肺管理料
・無菌製剤処理科	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)(初期加算)	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・輸血管理料Ⅰ
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・輸血適正使用加算
・がん患者リハビリテーション料	・自己クリオプレシピレート作製法(用手法)
・リンパ浮腫複合的治療料	・人工肛門・人工膀胱造設術前前処置加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・レーザー機器加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・人工腎臓(慢性維持透析1)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・導入期加算3	・周術期薬剤管理加算
・透析液水質確保加算および慢性維持透析濾過加算	・放射線治療専任加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・外来放射線治療加算
・心不全に対する遠赤外線温熱療法	・高エネルギー放射線治療
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・1回線量増加加算
・CAD/CAM冠	・強度変調放射線治療(IMRT)
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・定位放射線治療
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・画像誘導密封小線源治療加算
・椎間板内酵素注入療法	・保険医療機関間の連携による病理診断
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・病理診断管理加算2

施設基準の種類	施設基準の種類
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・クラウン・ブリッジ維持管理料



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血液線維素溶解系因子による虚血再灌流障害の制御機構の解明と臨床応用に向けて	田代 良彦	消化器一般外科学	¥200,000	補助金	日本学術振興会
心臓リハビリテーションによるHDL亜分画の変化及び冠動脈イベント回避への影響	横田 裕哉	循環器内科学	¥400,000	補助金	日本学術振興会
消化器癌における術中リアルタイムがん診断自動解析システムの新規開発	青木 武士	消化器一般外科学	¥100,000	補助金	日本学術振興会
シミュレーションシステムによる反復学修はアナフィラキシーへの対応能力を向上させる	鈴木 慎太郎	呼吸器アレルギー内科学	¥500,000	補助金	日本学術振興会
終末糖化産物阻害アプタマーによる老年病の包括的な制御	山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科学	¥1,400,000	補助金	日本学術振興会
AIブランク診断を用いた高齢者急性冠症候群治療における出血イベント最少化戦略	新家 俊郎	循環器内科学	¥700,000	補助金	日本学術振興会
極低出生体重児に対する経母乳ヒトサイトメガロウイルス感染症対策	水野 克己	小児内科学	¥300,000	補助金	日本学術振興会
人工知能(AI)とRNA-Seqの融合による遺伝性小児神経疾患の新たな病因解明	加藤 光広	小児内科学	¥1,000,000	補助金	日本学術振興会
TGF- $\beta$ 誘導性分子を標的とした新規肺線維症治療戦略の構築	雷 小峰	皮膚科学	¥1,500,000	補助金	日本学術振興会
アニキサスアレルギーの低アレルギー化による再発予防法の確立	猪又 直子	皮膚科学	¥1,000,000	補助金	日本学術振興会
肝腫瘍に対する肝表層血管構造のAI診断に基づくリアルタイム解析システムの開発	松田 和広	消化器一般外科学	¥600,000	補助金	日本学術振興会
ガンマ波規則性定量化・動的解析によるてんかん病変部・ネットワーク描出法の開発	佐藤 洋輔	脳神経外科学	¥0	補助金	日本学術振興会
整形外科手術後における炭酸ガス経皮吸収療法: 上肢術後機能回復効果の検証	李 相亮	整形外科	¥1,100,000	補助金	日本学術振興会
母体血漿中DNA/RNAを用いた妊娠高血圧症候群の予知法の開発	小出 馨子	産婦人科学	¥1,100,000	補助金	日本学術振興会
常位胎盤早期剥離の発症機序に関する研究: 子宮内細菌叢の観点から	関沢 明彦	産婦人科学	¥1,100,000	補助金	日本学術振興会
HPVワクチンの有効性: ブレイクスルー症例の解析	小貫 麻美子	産婦人科学	¥1,100,000	補助金	日本学術振興会
外来でがん薬物療法有害事象評価シートを活用した診察前問診の有用性の検討	本間 織重	看護学科	¥800,000	補助金	日本学術振興会
早産児に対する亜鉛早期補充の臨床的検討	宮沢 篤生	小児内科学	¥900,000	補助金	日本学術振興会
慢性腎臓病の栄養障害・サルコペニアの発症・進展とエピゲノム異常の関係	本田 浩一	腎臓内科学	¥200,000	補助金	日本学術振興会
鶏卵アレルギー経口免疫療法の舌下免疫療法併用効果に関するランダム化対照比較試験	今井 孝成	小児内科学	¥1,000,000	補助金	日本学術振興会
糖尿病心筋症の新たな治療法の開発-終末糖化産物阻害アプタマーを用いた解析	福井 智康	糖尿病・代謝・内分泌内科学	¥800,000	補助金	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害の腫瘍神経免疫学的病態解析による定量評価法の開発	有泉 裕嗣	腫瘍内科学	¥900,000	補助金	日本学術振興会
先天性心疾患における術後リンパ管合併症の発症予測と早期診断法の確立に関する研究	喜瀬 広亮	小児循環器内科学	¥600,000	補助金	日本学術振興会
アミノ基付加DLCコーティング人工血管開発と、官能基がDLCに及ぼす効果の検討	堀尾 直裕	小児心臓血管外科学	¥1,300,000	補助金	日本学術振興会
首下がり症の病態解明と治療戦略の確立	工藤 理史	整形外科	¥1,100,000	補助金	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症発症のメカニズムの解析: 妊娠初期の胎盤のエピゲノム異常の解明	川嶋 章弘	産婦人科学	¥1,300,000	補助金	日本学術振興会
実習指導者講習を修了した看護師を対象とした院内教育プログラムの開発	中村 綾子	看護学科	¥200,000	補助金	日本学術振興会
より安全な低侵襲下手術を目的としたエネルギーデバイスによる熱損傷の検証	大塚 耕司	消化器一般外科学	¥400,000	補助金	日本学術振興会
Insight TNBCtype1によるsubtype/分子標的薬治療の確立	増田 紘子	乳腺外科学	¥300,000	補助金	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症の発症予知方法確立および低用量アスピリン内服による発症予防効果検証	徳中 真由美	産婦人科学	¥500,000	補助金	日本学術振興会
PTPRK遺伝子変異を介した大腸発癌機構の解明	東條 正幸	消化器内科学	¥900,000	補助金	日本学術振興会
膵臓がんに対する次世代型免疫療法開発にむけた腫瘍細胞に特異的な糖鎖構造の解析	大熊 遼太郎	腫瘍内科学	¥800,000	補助金	日本学術振興会
異なる生活環境における腸内細菌叢の違いに着目したアレルギー疾患発症因子の解明	岡田 祐樹	小児内科学	¥700,000	補助金	日本学術振興会
終末糖化産物受容体阻害アプタマーによる血管再狭窄に対する新しい治療手段の開発	九島 秀樹	糖尿病・代謝・内分泌内科学	¥1,400,000	補助金	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群における脳脊髄液の比重変化と脊髄くも膜下麻酔範囲への影響	細川 幸希	麻酔科学	¥200,000	補助金	日本学術振興会
慢性副鼻腔炎におけるバイオマーカーとしてのペリオスチンの有用性の検討	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	¥100,000	補助金	日本学術振興会
COPD患者におけるフレイル発症・進行因子の特定	平井 邦朗	呼吸器アレルギー内科学	¥400,000	補助金	日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
局所進行食道がん根治治療術に併用可能な抗生物質溶出性カバードステントの開発	原田 堅	放射線治療学	¥1,200,000	補助金	日本学術振興会
腎炎・ネフローゼ症候群に対する新規治療戦略の探求: 脂質異常症からのアプローチ	鈴木 泰平	腎臓内科学	¥2,400,000	補助金	日本学術振興会
気道上皮角層蛋白発現と気道上皮バリアー機能を改善する新規喘息治療法の開発	井上 英樹	呼吸器アレルギー内科学	¥1,300,000	補助金	日本学術振興会
骨化性線維粘性性腫瘍における新規融合遺伝子の臨床的意義と作用機構の解明	関水 壮哉	整形外科	¥900,000	補助金	日本学術振興会
対側リスク低減乳房切除術を受けた遺伝性乳癌卵巣癌症候群女性のQOL調査	犬塚 真由子	大学院保健医療学研究科	¥400,000	補助金	日本学術振興会
食品因子の新たな骨破壊予防戦略: 肥満に伴う破骨細胞分化とアポトーシス制御	田中 未央里	小児内科学	¥1,200,000	補助金	日本学術振興会
神経ペプチドPACAPの熱中症による全身および神経炎症抑制機構の解明	土肥 謙二	救急・災害医学	¥5,100,000	補助金	日本学術振興会
MTAP遺伝子欠失をもつ大腸癌の癌微小環境における免疫細胞の活性化機序の解明	濱田 和幸	腫瘍内科学	¥1,000,000	補助金	日本学術振興会
損傷脊髄に生着しやすい骨髄間葉系幹細胞の特性化と予見的選択法の開発	平泉 裕	整形外科	¥600,000	補助金	日本学術振興会
HPVワクチン接種後の血清抗体: 発症予防抗体価と持続期間の検討	松本 光司	産婦人科学	¥900,000	補助金	日本学術振興会
少子化対策としての心停止下提供子宮移植普及へ向けた基礎研究(動物実験モデル)	加藤 容二郎	消化器一般外科学	¥900,000	補助金	日本学術振興会
微小環境におけるインテグリンの癌免疫応答作用機序の解明	村山 正和	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	¥1,000,000	補助金	日本学術振興会
文献レジストリ構築とリアルワールドデータによる膠原病予後因子の網羅的負荷推計	辻本 康	リウマチ・膠原病内科学	¥800,000	補助金	日本学術振興会
NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの普及と実用化研究	井出 由美	看護学科	¥600,000	補助金	日本学術振興会
「主体性」が中途障害者の生活を改善させる—主体性評価に基づく関わり方の効果—	和田 真一	リハビリテーション医学	¥800,000	補助金	日本学術振興会
AIを活用した食道がん術後再発に対する放射線治療の効果予測	加藤 正子	放射線治療学	¥2,700,000	補助金	日本学術振興会
高齢者の手術リスクを可視化する: 合併症予測モデルを基軸とした最適な術式選択	石川 紘司	整形外科	¥900,000	補助金	日本学術振興会
終末糖化産物を標的としたフレイルに対する包括的な治療手段の開発	大坂 直也	糖尿病・代謝・内分泌内科学	¥2,100,000	補助金	日本学術振興会
喘息患者における広域周波オンレーション法での呼吸抵抗に基づいた新規治療法の探求	宮田 祐人	呼吸器アレルギー内科学	¥1,500,000	補助金	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した腹膜中皮細胞移植治療の有用性の検討	加藤 憲	腎臓内科学	¥1,400,000	補助金	日本学術振興会
乳癌術前化学療法後の腫瘍修復を標的とした新規手術・診断システムの開発	垂野 香苗	乳腺外科学	¥1,000,000	補助金	日本学術振興会
熱中症における熱産生調節機構の解明と予防戦略の確立	鈴木 恵輔	救急・災害医学	¥800,000	補助金	日本学術振興会
早期社会復帰に向けた嚥下訓練支援アプリ使用によるQOLおよび全身・嚥下機能の変化	田下 雄一	頭頸部腫瘍センター	¥2,900,000	補助金	日本学術振興会
人工呼吸器離脱の意思決定における横隔膜機能評価の臨床的有効性に関する研究	田代 尚範	理学療法学科	¥300,000	補助金	日本学術振興会
食物アレルギー児におけるレジリエンス尺度の開発	今井 孝成	小児内科学	¥1,810,000	助成金	公益財団法人ニッポンハム食の未来財団
非HIV免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	末木 博彦	皮膚科	¥2,480,775	委託費	日本医療研究開発機構
日本人BRCA未発症変異保持者に対する乳癌リスク低減手法の開発研究	中村 清吾	乳腺外科	¥4,520,000	委託費	日本医療研究開発機構
重症化ゼロを目指したスギ・ヒノキ花粉症に対するアレルギー免疫療法の実用化	平野 康次郎	耳鼻咽喉科	¥500,000	委託費	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥390,000	委託費	日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥100,000	委託費	日本医療研究開発機構
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌(pT1癌)に対するカベキサピン併用放射線療法法の単群検証的試験(JCOG1612)	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥500,000	委託費	日本医療研究開発機構
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥300,000	委託費	日本医療研究開発機構
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	松本 光司	産婦人科学講座	¥9,000,000	委託費	日本医療研究開発機構
重症気管支炎喘息患者の生物学的製剤の有効性を予測するバイオマーカーの探索	相良 博典	呼吸器・アレルギー内科学	¥0	委託費	日本医療研究開発機構
日・リトアニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究	中村 清吾	乳腺外科	¥6,750,000	委託費	日本医療研究開発機構
ARXポリアラニン伸長変異によるウエスト症候群の病態解明	加藤 光広	小児科	¥1,000,000	委託費	日本医療研究開発機構
ナッツ類アレルギーの診断精度向上のための新規アレルゲンコンポーネントの開発	今井 孝成	小児科	¥160,000	委託費	日本医療研究開発機構
頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関するランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥400,000	委託費	日本医療研究開発機構
高齢者初発膠芽腫に対するテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥0	委託費	日本医療研究開発機構
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	白土 なほ子	産婦人科学講座	¥5,470,000	補助金	厚生労働省
稀少てんかんに関する包括的研究	加藤 光広	小児科学	¥1,600,000	補助金	厚生労働省
先天異常症候群のライフステージ全体の自然歴と合併症の把握: Reverse phenotypingを包含したアプローチ	加藤 光広	小児科学	¥950,000	補助金	厚生労働省
HTLV-1母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究	関沢 明彦	産婦人科学講座	¥300,000	補助金	厚生労働省
食物経口負荷試験の標準的施行方法の確立と普及を目指す研究(21FE1002)	鈴木 慎太郎	呼吸器・アレルギー内科	代表者一括	補助金	厚生労働省
循環器病の慢性期・維持期におけるリハビリテーションの有効性の検証のための研究(22FA1020)	木庭 新治	循環器内科	¥0	補助金	厚生労働省
出生前診断の提供等に係る体制の構築に関する研究(20DA2003)	関沢 明彦	産婦人科学講座	¥0	補助金	厚生労働省
生殖・周産期に係る倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)の検討のための研究(22DA2022)	関沢 明彦	産婦人科学講座	¥2,000,000	補助金	厚生労働省
低出生体重児の成長・発達評価手法の確立のための研究(21DA1005)	水野 克己	小児科学講座	¥450,000	補助金	厚生労働省
ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究	水野 克己	小児科学講座	¥7,500,000	補助金	厚生労働省
HTLV-1母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究	宮沢 篤生	小児科学講座	¥300,000	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	関沢 明彦	産婦人科学講座	代表者一括	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	坂本 美和	産婦人科学講座	代表者一括	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	宮上 景子	産婦人科学講座	代表者一括	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	池本 舞	産婦人科学講座	代表者一括	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	水谷 あかね	産婦人科学講座	代表者一括	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	池袋 真	産婦人科学講座	代表者一括	補助金	厚生労働省
ゲノム情報を活用した遺伝性腫瘍の先制的医療提供体制の整備に関する研究	中村 清吾	外科学講座	¥750,000	補助金	厚生労働省
PRO-CTCAEの日本語版の実臨床および臨床試験における有効性の評価	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科	¥600,000	補助金	厚生労働省
無侵襲的胎児RHDジェノタイプング技術を遺伝学的検査として確立するための精度評価	関沢 明彦	産婦人科	¥560,000	委託費	国立成育医療研究センター
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥500,000	委託費	国立がん研究センター
高精度放射線治療の実施体制の確立と医療安全に関する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	代表者一括	委託費	国立がん研究センター

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究の内、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	別紙参照				Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計142件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計0件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ando Koichi, Ando Akane, Tanaka Akihiko et al.	呼吸器・アレルギー内科	Educational Effects of Simulation and Non-Simulation Training in Airway Management according to Levels of the Kirkpatrick Model: A Systematic Review and Network Meta-Analysis	J Clin Med. 2022 Sep 23;11(19):5614. (オンライン)	Journal Article
2	Ando Koichi, Manabe Ryo, Kishino Yasunari et al.	呼吸器・アレルギー内科	Comparative Efficacy of ALK Inhibitors for Treatment-Naïve ALK-Positive Advanced Non-Small Cell Lung Cancer with Central Nervous System Metastasis: A Network Meta-Analysis	Int J Mol Sci. 2023 Jan 23;24(3):2242. (オンライン)	Review
3	Kashima Ayaka, Fukuda Yosuke, Shimamura Miri et al.	呼吸器・アレルギー内科	Successful treatment of extensive-stage small cell lung cancer with concurrent pleural and pericardial effusions: Case report	Front Oncol. 2022 Dec 23;12:1040452. (オンライン)	Case Report
4	Matsunaga Tomohiro, Ohta Shin, Yamaguchi Fumihiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	Long-term follow-up of production of IgM and IgG antibodies against SARS-CoV-2 among patients with COVID-19	Showa Univ J Med Sci. 2023 Mar;35(1):25-32. (オンライン)	Journal Article
5	Miyata Yoshito, Inoue Hideki, Hirai Kuniaki et al.	呼吸器・アレルギー内科	Serum cystatin C and CRP are early predictive biomarkers for emergence of hypoxia in COVID-19	Am J Med Sci. 2022 Dec;364(6):706-713.	Journal Article
6	Ohta Shin, Tanaka Akihiko, Okazaki Tomoko et al.	呼吸器・アレルギー内科	Fetal Lung Cells Transfer Improves Emphysematous Change in a Mouse Model of Neutrophil Elastase-Induced Lung Emphysema	Curr Issues Mol Biol. 2022 Aug 29;44(9):3923-3929.	Journal Article
7	Sagara Hironori, D'Andrea Peter, Tanase Ana-Maria et al.	呼吸器・アレルギー内科	Long-term safety of once-daily indacaterol acetate/glycopyrronium bromide/mometasone furoate high-dose, and indacaterol acetate/mometasone furoate high-dose, in Japanese patients with inadequately controlled asthma: Results from two open-label, 52-week studies	J Asthma. 2023 Feb;60(2):403-411.	Journal Article
8	Suganuma Hiromitsu, Kusumoto Sojiro, Manabe Ryo et al.	呼吸器・アレルギー内科	The PD-L1/22C3 assay for primary lung cancer is feasible for daily clinical practice irrespective of the diagnostic procedure	Showa Univ J Med Sci. 2022 Jun;34(2):64-77. (オンライン)	Journal Article
9	Fuji Takahiro, Arai Jun, Otoyama Yumi et al.	消化器内科	A Case of Hepatocellular Carcinoma Successfully Resumed Atezolizumab and Bevacizumab After Associated Grade 3 Diarrhea and Grade 2 Colitis: Case Report and Literature Review	Onco Targets Ther. 2022 Oct 25;15:1281-1288. (オンライン)	Case Report
10	Higuchi Kensuke, Katagiri Atsushi, Nakatani Shinya et al.	消化器内科	Risk Factors Indicating Difficulty During Gastric Endoscopic Submucosal Dissection for Inexperienced Endoscopists: A Retrospective Study	Cureus. 2022 Dec 19;14(12):e32713. (オンライン)	Journal Article
11	Ishii Yu, Nakayama Akihiro, Kikuchi Kazuo et al.	消化器内科	Hemostasis using a covered self-expandable metal stent for pseudoaneurysm bleeding from the perihilar bile duct	DEN Open. 2022 Jun 30;3(1):e150. (オンライン)	Case Report
12	Nakatani Shinya, Inoki Kazuya, Tashiro Tomoe et al.	消化器内科	Small intestinal bleeding and stricture caused by Meckel's diverticulum	Clin Case Rep. 2022 Aug 11;10(8):e6144. (オンライン)	Case Report
13	Nishihara Shigetoshi, Yamaoka Toshimitsu, Ishikawa Fumihiro et al.	消化器内科	Diverse Mechanisms of Resistance against Osimertinib, a Third-Generation EGFR-TKI, in Lung Adenocarcinoma Cells with an EGFR-Activating Mutation	Cells. 2022 Jul 14;11(14):2201. (オンライン)	Journal Article
14	Nishihara Shigetoshi, Yamaoka Toshimitsu, Ishikawa Fumihiro et al.	消化器内科	Mechanisms of EGFR-TKI-Induced Apoptosis and Strategies Targeting Apoptosis in EGFR-Mutated Non-Small Cell Lung Cancer	Genes (Basel). 2022 Nov 22;13(12):2183. (オンライン)	Review
15	Usami Tomono, Inoki Kazuya, Ishii Yu et al.	消化器内科	The effectiveness of bile cytology during percutaneous transhepatic gallbladder drainage for acute cholecystitis in diagnosing incidental gallbladder cancer	Showa Univ J Med Sci. 2022 Sep;34(3):149-158. (オンライン)	Journal Article
16	Arai Jun, Otoyama Yumi, Fujita Ken-Ichi et al.	消化器内科	Baseline soluble MICA levels act as a predictive biomarker for the efficacy of regorafenib treatment in colorectal cancer	BMC Cancer. 2022 Apr 20;22(1):428. (オンライン)	Journal Article
17	Arai Jun, Otoyama Yumi, Nozawa Hisako et al.	消化器内科	The immunological role of ADAMs in the field of gastroenterological chronic inflammatory diseases and cancers: a review	Oncogene. 2023 Feb;42(8):549-558.	Review
18	Arai Shuhei, Watanabe Norikazu, Sugiyama Hiroto et al.	循環器内科	Esophageal thermal lesions in radiofrequency ablation for atrial fibrillation: A prospective comparative study of thermal sensors	Pacing Clin Electrophysiol. 2022 Aug;45(8):913-921.	Journal Article
19	Arai Taito, Sekimoto Teruo, Koba Shinji et al.	循環器内科	Impact of small dense low-density lipoprotein cholesterol and triglyceride-rich lipoproteins on plaque rupture with ST-segment elevation myocardial infarction	J Clin Lipidol. 2022 Sep-Oct;16(5):725-732.	Journal Article
20	Chino Saori, Mochizuki Yasuhide, Mizuma Keita et al.	循環器内科	Transcranial Doppler for stratification of high-risk morphology of patent foramen ovale in patients with cryptogenic stroke	Heart Vessels. 2022 Dec;37(12):2119-2127.	Journal Article
21	Hachiya Rumi, Mochizuki Yasuhide, Shibakai Mina et al.	循環器内科	Right ventricular contractility affects the clinical efficacy of add-on tolvaptan following hospitalization for heart failure in patients with significant tricuspid regurgitation	Heart Vessels. 2022 May;37(5):755-764.	Journal Article
22	Matsumoto Hidenari, Higuchi Satoshi, Tanaka Hideaki et al.	循環器内科	Insufficient adenosine-induced hyperemia is a major determinant of discordance between non-hyperemic pressure ratio and fractional flow reserve	Sci Rep. 2023 Jan 13;13(1):729. (オンライン)	Journal Article
23	Matsumoto Hidenari, Masaki Ryota, Higuchi Satoshi et al.	循環器内科	Impact of overestimation of fractional flow reserve by adenosine on anatomical-functional mismatch	Sci Rep. 2022 Sep 2;12(1):14962. (オンライン)	Journal Article

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
24	Matsumoto Hidenari	循環器内科	Reply: Caffeine and fractional flow reserve overestimation: a word of caution	EuroIntervention. 2022 Aug 19;18(6):525-526.	Letter
25	Sakai Koshiro, Collet Carlos, Matsuo Hitoshi	循環器内科	Improvement of angina after treating focal coronary artery disease undetected in resting conditions	Eur Heart J. 2023 Mar 21;44(12):1097.	Journal Article
26	Sekimoto Teruo, Mori Hiroyoshi, Koba Shinji et al.	循環器内科	Clinical features and lipid profiles of plaque erosion over lipid-rich plaque versus fibrous plaque in patients with acute coronary syndrome	Atherosclerosis. 2022 Nov;360:47-52.	Journal Article
27	Sekimoto Teruo, Koba Shinji, Mori Hiroyoshi et al.	循環器内科	Impact of small dense low-density lipoprotein cholesterol on cholesterol crystals in patients with acute coronary syndrome: An optical coherence tomography study	J Clin Lipidol. 2022 Jul-Aug;16(4):438-446.	Journal Article
28	Aoki Atsushi, Maruta Kazuto, Masuda Tomoaki et al.	心臓血管外科	Procedure and Aortic Remodeling Effects of Entry Closure with Stentgraft for Type B Aortic Dissection: Comparison between the Patients with Narrow True Lumen and Those with Aneurysmal Dilated False Lumen	Ann Vasc Dis. 2022 Sep 25;15(3):175-185.	Journal Article
29	Omoto Tadashi, Aoki Atsushi, Maruta Kazuto et al.	心臓血管外科	Operative Timing and Feasibility of Mitral Valve Repair in Active Infective Endocarditis	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Feb 20;29(1):23-28.	Journal Article
30	Arakaki Tatsuya, Hasegawa Junichi, Sekizawa Akihiko et al.	産婦人科	Risk factors for severe disease and impact of severity on pregnant women with COVID-19: a case-control study based on data from a nationwide survey of maternity services in Japan	BMJ Open. 2022 Dec 30;12(12):e068575. (オンライン)	Journal Article
31	Asami Yuka, Hiranuma Kengo, Takayanagi Daisuke et al.	産婦人科	Predictive model for the preoperative assessment and prognostic modeling of lymph node metastasis in endometrial cancer	Sci Rep. 2022 Nov 8;12(1):19004. (オンライン)	Journal Article
32	Kogure Gota, Onuki Mamiko, Hirose Yusuke et al.	産婦人科	Whole-genome analysis of human papillomavirus 67 isolated from Japanese women with cervical lesions	Virol J. 2022 Oct 7;19(1):157. (オンライン)	Journal Article
33	Kuriki Akane, Hosoya Satoshi, Ozawa Katsusuke et al.	産婦人科	Quantitative assessment of coat-hanger ribs detected on three-dimensional ultrasound for prenatal diagnosis of Kagami-Ogata syndrome	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Dec;48(12):3314-3318. (オンライン)	Case Report
34	Matsushita Tomomi, Honda Aiko, Hasegawa Takeshi et al.	産婦人科	Regular weighing to prevent excessive gestational weight gain: a study protocol for a systematic review and meta-analysis	Syst Rev. 2022 May 26;11(1):104. (オンライン)	Journal Article
35	Nakamura Masamitsu, Oba Tomohiro, Salafia Carolyn M et al.	産婦人科	Ultrasonographic study of umbilical cord twist direction during second trimester	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022 Nov;35(22):4233-4239. (オンライン)	Journal Article
36	Nishii Shogo, Ezoe Kenji, Nishihara Seiko et al.	産婦人科	Association between endometrial thickness before ovulation, live birth, and placenta previa rates in clomiphene citrate-treated cycles	AJOG Glob Rep. 2023 Jan 18;3(1):100161. (オンライン)	Journal Article
37	Onuki Mamiko, Yamamoto Kasumi, Yahata Hideaki et al.	産婦人科	Human papillomavirus vaccine effectiveness by age at first vaccination among Japanese women	Cancer Sci. 2022 Apr;113(4):1428-1434. (オンライン)	Journal Article
38	Takita Hiroko, Matsuoka Ryu, Goto Minako et al.	産婦人科	Long-term outcome of cases of fetal pleural effusion: A study at a single perinatal center in Japan	J Clin Ultrasound. 2022 Jul;50(6):805-809.	Journal Article
39	Takita Hiroko, Tokunaka Mayumi, Arakaki Tatsuya et al.	産婦人科	Perinatal outcomes of cases with umbilical hypocoiled cord: a study at a single perinatal center	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022 Aug;35(15):2879-2882. (オンライン)	Journal Article
40	Adachi Masanori, Nagahara Keiko, Ochi Ayako et al.	小児科	Acid-Base Imbalance in Pseudohypoaldosteronism Type 1 in Comparison With Type IV Renal Tubular Acidosis	J Endocr Soc. 2022 Sep 27;6(12):bvac147. (オンライン)	Journal Article
41	Ebata Akio, Nakano Yuya, Ujiie Gakuto et al.	小児科	Birth Weight Standard Deviation Score is a Significant Determinant of Serum Urotensin-II Levels at Term-Equivalent Age in Preterm Infants	Am J Perinatol. 2022 Jul;39(9):959-964.	Journal Article
42	Furukawa Kazuna, Mizuno Katsumi, Azuma Minami et al.	小児科	Reliability of an Ion-Selective Electrode as a Simple Diagnostic Tool for Mastitis	J Hum Lact. 2022 May;38(2):262-269.	Journal Article
43	Maeda Mayu, Kuwabara Yu, Tanaka Yuya et al.	小児科	Is oral food challenge test useful for avoiding complete elimination of cow's milk in Japanese patients with or suspected of having IgE-dependent cow's milk allergy?	Allergol Int. 2022 Apr;71(2):214-220.	Journal Article
44	Miyazawa Tokuo, Arahori Hitomi, Ohnishi Satoshi et al.	小児科	Mortality and morbidity of extremely low birth weight infants in Japan, 2015	Pediatr Int. 2023 Jan;65(1):e15493. (オンライン)	Journal Article
45	Nagahara Keiko, Nishibukuro Tsuyoshi, Ogiwara Yasuko et al.	小児科	Genetic Analysis of Japanese Children Clinically Diagnosed with Familial Hypercholesterolemia	J Atheroscler Thromb. 2022 May 1;29(5):667-677. (オンライン)	Journal Article
46	Oikawa Kosuke, Ochiai Hirota, Matsuhashi Kazuhiko et al.	小児科	Summer Hospitalization and Bronchial Asthma Make Treatment of Respiratory Syncytial Virus Infection Difficult: A Retrospective Study in Japan	Glob Pediatr Health. 2022 May 17;9:2333794X221100950.	Journal Article
47	Yoshida Yurika, Azuma Minami, Furukawa Kazuna et al.	小児科	Microwave Heating of Human Milk With Direct Temperature Monitoring	J Hum Lact. 2022 May;38(2):323-331.	Journal Article

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
48	Arai Shintaro, Mizutani Tohru, Sugiyama Tatsuya et al.	脳神経外科	Single-Center Case Series of Simple Proximal Clipping for Large Thrombosed Vertebral Artery Aneurysms: Preservation of Perforating Arteries and Long-Term Outcomes	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2023 Feb 1;24(2):131-137.	Journal Article
49	Nagatsuka Hiroki, Miki Yuma, Tetsuo Yoshiaki et al.	脳神経外科	Carotid artery stenting for stenosis after carotid artery replacement: An illustrative case report	Surg Neurol Int. 2023 Jan 13;14:8. (オンライン)	Case Report
50	Sato Yosuke, Tsuji YYoshihito, Yamazaki Madoka et al.	脳神経外科	Interictal High Gamma Oscillation Regularity as a Marker for Presurgical Epileptogenic Zone Localization	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2022 Aug 1;23(2):164-173.	Journal Article
51	Hiruma Kaede, Suzuki Keisuke, Kato Akihito et al.	救命救急科	Benign noninfectious subcutaneous emphysema with minor injury: A case report	Heliyon. 2022 Dec 23;9(1):e12317. (オンライン)	Case Report
52	Kato Akihito	救命救急科	Antibiotic Impregnation, Release, Activity, and Interaction With Porous Hydroxyapatite for Infectious Control in Neurotrauma Surgery	J Pharm Sci. 2022 Aug;111(8):2389-2396. (オンライン)	Journal Article
53	Katsuki Shino, Miyamoto Kazuyuki, Yamaga Hiroki et al.	救命救急科	Obstructive shock due to right ventricular compression by a massively expanded reconstructed gastric tube	Am J Emerg Med. 2022 Dec;62:149.e5-149.e7.	Case Report
54	Maeda Atsuo, Kijima Kazuhiro, Hayashi Munetaka, et al.	救命救急科	Computed tomography tractography of anterior abdominal stab wounds	Acute Med Surg. 2022 Sep 30;9(1):e788. (オンライン)	Case Report
55	Miyamoto Kazuyuki, Kaki Yuki, Katsuki Shino et al.	救命救急科	A Case of Acute Non-ST Elevation Myocardial Infarction Later Revealed by Contrast-Enhanced Computed Tomography	Am J Case Rep. 2022 Jul 25;23:e936891. (オンライン)	Case Report
56	Miyamoto Kazuyuki, Katsuki Shino, Yamaga Hiroki et al.	救命救急科	Guillain-Barré syndrome diagnosed as central cervical spinal cord injury after hyperextension injury	Am J Emerg Med. 2022 May;55:224.e5-224.e7.	Case Report
57	Miyamoto Kazuyuki, Nakamura Motoyasu, Ohtaki Hirokazu et al.	救命救急科	Heatstroke-induced late-onset neurological deficits in mice caused by white matter demyelination, Purkinje cell degeneration, and synaptic impairment in the cerebellum	Sci Rep. 2022 Jun 22;12(1):10598. (オンライン)	Journal Article
58	Suzuki Keisuke, Miyamoto Kazuyuki, Ozawa Shutaro et al.	救命救急科	Repeated hypocalcemia in a patient with "Hikikomori" following veganism	Heliyon. 2022 Jun 7;8(6):e09563. (オンライン)	Case Report
59	Suzuki Keisuke, Yamaga Hiroki, Ohtaki Hirokazu et al.	救命救急科	Effect of PACAP on Heat Exposure	Int J Mol Sci. 2023 Feb 16;24(4):3992. (オンライン)	Journal Article
60	Fukui Tomoyasu, Takehana Nobuaki, Mori Yusaku et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Efficacy of a new enzyme-linked immunosorbent assay system for three islet cell autoantibodies in Japanese patients with acute-onset type 1 diabetes	Endocr J. 2022 Nov 28;69(11):1343-1349. (オンライン)	Journal Article
61	Hayashi Toshiyuki, Ai Masumi, Goto Satoshi et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Circadian Rhythm of Subspecies of Low-Density Lipoprotein-Cholesterol and High-Density Lipoprotein-Cholesterol in Healthy Subjects and Patients with Type 2 Diabetes	J Atheroscler Thromb. 2023 Jan 1;30(1):3-14. (オンライン)	Journal Article
62	Osaka Naoya, Mori Yusaku, Terasaki Michishige et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Luseogliflozin inhibits high glucose-induced TGF-β 2 expression in mouse cardiomyocytes by suppressing NHE-1 activity	J Int Med Res. 2022 May;50(5):3000605221097490. (オンライン)	Journal Article
63	Terasaki Michishige, Shibata Keita, Mori Yusaku et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	SMP-44D Inhibits Atherosclerotic Plaque Formation in Apolipoprotein-E Null Mice Partly by Suppressing the AGEs-RAGE Axis	Int J Mol Sci. 2023 Mar 30;24(7):6505.	Journal Article
64	Wang Chi-Wei, Lee Ping-Jui, Wu Chih-Wei et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of Pathological Outcome and Recurrence Rate between En Bloc Transurethral Resection of Bladder Tumor and Conventional Transurethral Resection: A Meta-Analysis	Cancers (Basel). 2023 Mar 30;15(7):2055. (オンライン)	Journal Article
65	Abe Maki, Ikeda-Taniguchi Misa, Honda Hirokazu	腎臓内科	Changes in Sequential Organ Failure Assessment sub-scores as predictors of mortality in patients with septic acute kidney injury requiring continuous renal replacement therapy	Showa Univ J Med Sci. 2022 Sep;34(3):159-175. (オンライン)	Journal Article
66	Akizawa Tadao, Nangaku Masaomi, Yamaguchi Takuhiro et al.	腎臓内科	Two long-term phase 3 studies of enarodustat (JTZ-951) in Japanese anemic patients with chronic kidney disease not on dialysis or on maintenance hemodialysis: SYMPHONY ND-Long and HD-Long studies	Ther Apher Dial. 2022 Apr;26(2):345-356.	Journal Article
67	Akizawa Tadao, Nobori Kiyoshi, Matsuda Yoshimi et al.	腎臓内科	Molidustat for the treatment of anemia in Japanese patients undergoing peritoneal dialysis: a single-arm, open-label, phase 3 study	Ther Apher Dial. 2022 Apr;26(2):368-377.	Journal Article
68	Akizawa Tadao, Tanaka-Amino Keiko, Otsuka Tetsuro et al.	腎臓内科	Clinical parameters among patients in Japan with anemia and non-dialysis-dependent chronic kidney disease with and without diabetes mellitus who received roxadustat	Clin Exp Nephrol. 2022 Sep;26(9):843-850.	Journal Article
69	Ikeda-Taniguchi Misa, Takahashi Keiko, Shishido Kanji et al.	腎臓内科	Total iron binding capacity is a predictor for muscle loss in maintenance hemodialysis patients	Clin Exp Nephrol. 2022 Jun;26(6):583-592.	Journal Article
70	Kabayashi Yui, Iseri Ken, Yamamoto Yasutaka et al.	腎臓内科	Bilateral renal subcapsular hematoma caused by polyarteritis nodosa: a case report	CEN Case Rep. 2022 Nov;11(4):399-403. (オンライン)	Case Report
71	Saito Tomohiro, Mizobuchi Masahide, Kato Tadashi et al.	腎臓内科	One-Year Romosozumab Treatment Followed by One-Year Denosumab Treatment for Osteoporosis in Patients on Hemodialysis: An Observational Study	Calcif Tissue Int. 2023 Jan;112(1):34-44. (オンライン)	Journal Article

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
72	Saito Tomohiro, Mizobuchi Masahide, Kato Tadashi et al.	腎臓内科	Fibroblast Growth Factor 23 Exacerbates Cardiac Fibrosis in Deoxycorticosterone Acetate-Salt Mice With Hypertension	Lab Invest. 2023 Jan;103(1):100003. (オンライン)	Journal Article
73	Suzuki Taihei, Mizobuchi Masahide, Yoshida Shunsuke et al.	腎臓内科	Romosozumab successfully regulated progressive osteoporosis in a patient with autosomal dominant polycystic kidney disease undergoing hemodialysis	Osteoporos Int. 2022 Dec;33(12):2649-2652.	Case Report
74	Yoshida Shunsuke, Saito Tomohiro, Shibagaki Keigo et al.	腎臓内科	Changes of biomarkers for erythropoiesis, iron metabolism, and FGF23 by supplementation with roxadustat in patients on hemodialysis	Sci Rep. 2023 Feb 23;13(1):3181. (オンライン)	Journal Article
75	Hamada Kazuyuki, Kubota Yutaro, Aoki Yusuke et al.	腫瘍内科	Obesity Strongly Promotes Growth of Mouse MC38 Colon Cancer in an Orthotopic-syngeneic C57BL/6 Mouse Model	In Vivo. 2022 Jul-Aug;36(4):1643-1646. (オンライン)	Journal Article
76	Hamada Kazuyuki, Tsunoda Takuya, Yoshimura Kiyoshi	腫瘍内科	Emerging Immune-Monitoring System for Immune Checkpoint Inhibitors	Life (Basel). 2022 Aug 13;12(8):1229. (オンライン)	Review
77	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Hozumi Chihiro et al.	腫瘍内科	Stage IV Pancreatic Cancer Patient Treated With FOLFIRINOX Combined With Oral Methioninase: A Highly-Rare Case With Long-term Stable Disease	Anticancer Res. 2022 May;42(5):2567-2572.	Case Report
78	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Hamada Kazuyuki et al.	腫瘍内科	Long-term Stable Disease in a Rectal-cancer Patient Treated by Methionine Restriction With Oral Recombinant Methioninase and a Low-methionine Diet	Anticancer Res. 2022 Aug;42(8):3857-3861.	Case Report
79	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Masaki Noriyuki et al.	腫瘍内科	Elimination of Axillary-Lymph-Node Metastases in a Patient With Invasive Lobular Breast Cancer Treated by First-line Neo-adjuvant Chemotherapy Combined With Methionine Restriction	Anticancer Res. 2022 Dec;42(12):5819-5823.	Case Report
80	Kubota Yutaro, Han Qinghong, Hamada Kazuyuki et al.	腫瘍内科	Oral Installation of Recombinant Methioninase-producing Escherichia coli into the Microbiome Inhibits Colon-cancer Growth in a Syngeneic Mouse Model	Cancer Genomics Proteomics. 2022 Nov-Dec;19(6):683-691. (オンライン)	Journal Article
81	Kubota Yutaro, Sato Toshihiko, Hozumi Chihiro et al.	腫瘍内科	Superiority of [(11)C]methionine over [(18)F]deoxyglucose for PET Imaging of Multiple Cancer Types Due to the Methionine Addiction of Cancer	Int J Mol Sci. 2023 Jan 18;24(3):1935. (オンライン)	Journal Article
82	Sasaki Y, Sakaguchi C, Satoh E	腫瘍内科	Does the result of a small-scale phase II study of nivolumab for cancer of unknown primary justify regulatory approval?	Ann Oncol. 2022 Sep;33(9):984-985.	Letter
83	Wada Satoshi, Kobayashi Shinichi, Tsunoda Takuya	腫瘍内科	Future prospects for cancer immunotherapy - Strategies for ineffective cancers	Hum Vaccin Immunother. 2022 Dec 31;18(1):2031699.	Journal Article
84	Hashimoto Rikako, Akashi-Tanaka Sadako, Watanabe Chie et al.	乳腺外科	Diagnostic performance of dedicated breast positron emission tomography	Breast Cancer. 2022 Nov;29(6):1013-1021.	Journal Article
85	Matsutani Akiko, Taruno Kanae, Akashi-Tanaka Sadako et al.	乳腺外科	A comparison of tumor size with ultrasonography and magnetic resonance imaging and histopathology based on ductal carcinoma in situ subtype	Showa Univ J Med Sci. 2022 Sep;34(3):125-132. (オンライン)	Journal Article
86	Nakamura Seigo	乳腺外科	Homologous Recombination Deficiency in Triple-Negative Breast Cancer: Potential Benefit of a New Target	Ann Surg Oncol. 2023 Feb;30(2):678-679.	Others
87	Nakayama Sayuka, Masuda Hiroko, Miura Sakiko et al.	乳腺外科	Identifying ductal carcinoma in situ cases not requiring surgery to exclude postoperative upgrade to invasive ductal carcinoma	Breast Cancer. 2022 Jul;29(4):610-617.	Journal Article
88	Kudo Yoshifumi, Toyone Tomoaki, Okano Ichiro et al.	整形外科	Dropped Head Syndrome Caused by Thoracolumbar Deformity: A Report of 3 Cases	JBJS Case Connect. 2022 Oct 14;12(4):e22.00280. (オンライン)	Case Report
89	Kuroda Takuma, Moriya Koji, Tsubokawa Naoto et al.	整形外科	Comparison of bridge graft and end-to-side transfer for treatment of closed rupture of the flexor tendons in the little finger	J Hand Surg Eur Vol. 2022 May;47(5):520-526.	Journal Article
90	Matsuoka Akira, Toyone Tomoaki, Okano Ichiro et al.	整形外科	Comparison of pedicle screw placement accuracy between two types of imaging support (Artis Zeego versus two-dimensional fluoroscopy): a cross-sectional observational study	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Jul 5;23(1):644. (オンライン)	Journal Article
91	Mikami Yoshihiro, Iizuka Makito, Onimaru Hiroshi et al.	整形外科	Glycine and GABAA receptors suppressively regulate the inspiratory-related calcium rise in the thoracic inspiratory cells of the neonatal rat	J Physiol Sci. 2022 Oct 3;72(1):24. (オンライン)	Journal Article
92	Morohoshi Akiko, Qureshi AbAbdul Rashid, Iseri Ken et al.	整形外科	Secular trends in incidence and seasonal variation of distal radius fracture among children: A nationwide study based on the Swedish National Patient Register 2002-2016	Bone. 2022 Sep;162:116479.	Journal Article
93	Niitsuma Gaku, Kawasaki Keikichi, Inagaki Katsunori	整形外科	Digital Arterial Occlusion at the Metacarpophalangeal Joint with Hypothenar Hammer Syndrome-like Symptoms: A Case Report	J Orthop Case Rep. 2022 Dec;12(12):1-5.	Case Report
94	Tsuchiya Koki, Okano Ichiro, Shiose Katsuyuki et al.	整形外科	Atypical femoral fracture mimicking lumbar radiculopathy in two patients taking bisphosphonate long-term: A case report	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Dec 17;23(1):1103. (オンライン)	Case Report
95	Yasukawa Taiki, Ohya Junichi, Kawamura Naohiro et al.	整形外科	Dynamization-Posterior Lumbar Interbody Fusion for Hemodialysis-Related Spondyloarthropathy: Evaluation of the Radiographic Outcomes and Reoperation Rate within 2 Years Postoperatively	Asian Spine J. 2022 Oct;16(5):684-691.	Journal Article

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
96	Nojiri Eri, Wada Yoshitaka, Mochizuki Midori et al.	リハビリテーション科	Immediate effect of different ankle-foot orthosis functions with the same dorsiflexed setting of initial ankle joint angle on walking ability in individuals with chronic stroke: a randomized crossover trial	J Phys Ther Sci. 2022 Jul;34(7):485-491. (オンライン)	Journal Article
97	Sugiyama Mizuki, Kasai Fumihito, Kawate Nobuyuki	リハビリテーション科	The Impact of Isolation on Elderly Patients with Mild to Moderate COVID-19	Prog Rehabil Med. 2022 Jun 30;7:20220032. (オンライン)	Journal Article
98	Watarai Aya, Yasunaga Yoshichika, Nakao Junichi et al.	形成外科	Groin and anterolateral thigh flaps for hemiglossectomy reconstruction: A comparison based on Japanese speech intelligibility	Auris Nasus Larynx. 2023 Feb;50(1):110-118.	Journal Article
99	Hirano Kojiro, Tanaka Yoshihito, Kamimura Sawa et al.	耳鼻咽喉科	A 32-Year-Old Man with Persistent Olfactory Dysfunction Following COVID-19 Whose Recovery Was Evaluated by Retronasal Olfactory Testing	Am J Case Rep. 2022 Sep 12;23:e936496. (オンライン)	Case Report
100	Kamimura Sawa, Masaoka Yuri, Yoshikawa Akira et al.	耳鼻咽喉科	New granule cells in the olfactory bulb are associated with high respiratory input in an enriched odor environment	Neurosci Res. 2022 Sep;182:52-59.	Journal Article
101	Tanaka Yoshihito, Hirano Kojiro, Sekino Eriko et al.	耳鼻咽喉科	Case Report: A 29-Year-Old Pregnant Woman at 24 Weeks of Gestation Presenting with Laryngotracheitis and COVID-19 Due to the R.1 Variant of SARS-CoV-2	Am J Case Rep. 2022 Oct 18;23:e937834. (オンライン)	Case Report
102	Hirai Yuka, Hamada Yuko, Sasaki Shun et al.	皮膚科	Sarcoidosis and sarcoidal foreign body reaction after permanent eye makeup application: Analysis by immunohistochemistry with commercially available antibodies specific to Cutibacterium acnes and Mycobacteria	J Cutan Pathol. 2022 Jul;49(7):651-657.	Case Report
103	Lee Eun Seon, Kiuchi Yuji, Inomata Naoko et al.	皮膚科	Increased expression of human herpes virus 6 receptor CD134/OX40 in skin lesions of patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms	J Dermatol. 2023 Mar;50(3):387-392.	Journal Article
104	Lee EunSeon, Lee Suni, Tashiro Yasuya et al.	皮膚科	Sequential screening of biomarkers in a case of drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms occurring with virus reactivation and autoimmune disease	J Dermatol. 2022 Jul;49(7):e221-e223.	Case Report
105	Sueki Hirohiko, Watanabe Yuko, Sugiyama Seiko et al.	皮膚科	Drug allergy and non-HIV immune reconstitution inflammatory syndrome	Allergol Int. 2022 Apr;71(2):185-192.	Review
106	Sunaga Yuma, Hama Natsumi, Ochiai Hiroataka et al.	皮膚科	Risk factors for sepsis and effects of pretreatment with systemic steroid therapy for underlying condition in SJS/TEN patients: Results of a nationwide cross-sectional survey in 489 Japanese patients	J Dermatol Sci. 2022 Aug;107(2):75-81.	Journal Article
107	Yamamoto Sayaka, Seki Marina, Okusa Takehiro et al.	皮膚科	Airborne contact dermatitis to epoxy resin for creating herbarium	Contact Dermatitis. 2023 Mar;88(3):240-241.	Case Report
108	Inoue Tatsuki, Tsukada Mana, Tsunokawa Yoshiki et al.	泌尿器科	The Japanese Herbal Medicine Yokukansan Exerted Antioxidant and Analgesic Effects in an Experimental Rat Model of Hunner-Type Interstitial Cystitis	Medicina (Kaunas). 2022 Jun 15;58(6):810. (オンライン)	Journal Article
109	Niiya Akifumi, Murakami Kouzou, Kobayashi Rei et al.	放射線科	Development of an artificial intelligence-assisted computed tomography diagnosis technology for rib fracture and evaluation of its clinical usefulness	Sci Rep. 2022 May 19;12(1):8363. (オンライン)	Journal Article
110	Ando Akane, Ando Koichi, Oka Shuichiro et al.	麻酔科	Comparative efficacy of swallowing therapies for dysphagia to prevent pneumonia in patients with acute or subacute stroke: A network meta-analysis of randomized controlled trials	Showa Univ J Med Sci. 2022 Jun;34(2):47-53. (オンライン)	Journal Article
111	Bito Kiyoko, Shono Atsuko, Kimura Shinya et al.	麻酔科	Clinical Implications of Determining Individualized Positive End-Expiratory Pressure Using Electrical Impedance Tomography in Post-Cardiac Surgery Patients: A Prospective, Non-Randomized Interventional Study	J Clin Med. 2022 May 27;11(11):3022. (オンライン)	Journal Article
112	Masui Kenichi, Stöhr Thomas, Pesic Marija et al.	麻酔科	A population pharmacokinetic model of remimazolam for general anesthesia and consideration of remimazolam dose in clinical practice	J Anesth. 2022 Aug;36(4):493-505.	Journal Article
113	Watanabe Taro, Ohsugi Koichi, Suminaga Yuri et al.	集中治療科	An evaluation of the impact of the implementation of the Tele-ICU: a retrospective observational study	J Intensive Care. 2023 Mar 7;11(1):9. (オンライン)	Journal Article
114	Yajima Nobuyuki, Kawaguchi Takashi, Takahashi Ryo et al.	リウマチ・膠原病内科	Adherence to methotrexate and associated factors considering social desirability in patients with rheumatoid arthritis: a multicenter cross-sectional study	BMC Rheumatol. 2022 Dec 17;6(1):75. (オンライン)	Journal Article
115	Kuroda Takeshi, Ono Kenjiro, Honma Motoyasu et al.	脳神経内科	Cerebral white matter lesions and regional blood flow are associated with reduced cognitive function in early-stage cognitive impairment	Front Aging Neurosci. 2023 Feb 16;15:1126618. (オンライン)	Journal Article
116	Momma Yutaro, Tsuji Mayumi, Oguchi Tatsunori et al.	脳神経内科	The Curcumin Derivative GT863 Protects Cell Membranes in Cytotoxicity by Aβ Oligomers	Int J Mol Sci. 2023 Feb 4;24(4):3089. (オンライン)	Journal Article
117	Ohashi Hideaki, Tsuji Mayumi, Oguchi Tatsunori et al.	脳神経内科	Combined Treatment with Curcumin and Ferulic Acid Suppressed the Aβ-Induced Neurotoxicity More than Curcumin and Ferulic Acid Alone	Int J Mol Sci. 2022 Aug 26;23(17):9685. (オンライン)	Journal Article
118	Hayashi Wakaho, Tomita Akisa, Iwanami Akira	精神神経科	Mind wandering in adults with attention deficit hyperactivity disorder: Preliminary evaluation using the Mind Excessively Wandering Scale in a Japanese clinical population	Psychiatry Clin Neurosci Rep. 2022 Jun;1(2):e19. (オンライン)	Journal Article
119	Ikuse Daisuke, Hayashi Wakaho, Hanawa Youichi et al.	精神神経科	Effects of Gaze Cues on Distributive Behavior of the Ultimatum Game in Adults With Attention Deficit Hyperactivity Disorder	J Nerv Ment Dis. 2022 Jul 1;210(7):525-531.	Journal Article

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
120	Okino Kazumaro, Suzuki Hirohisa, Kondo Seiji et al.	精神神経科	Effectiveness of change from suvorexant to lemborexant drug in the treatment of sleep disorders	Psychogeriatrics. 2022 Sep;22(5):595-604. (オンライン)	Journal Article
121	Fujii Takanari, Moriichi Akinori, Kakee Naoko et al.	小児循環器・成人先天性心疾患センター	Epidemiologic study of patients after Fontan operation based on Medical Aid Program for Chronic Pediatric Diseases of Specified Categories cohort	Cardiol Young. 2023 Feb;33(2):248-254. (オンライン)	Journal Article
122	Kise Hiroaki, Fujii Takanari, Tomita Hideshi	小児循環器・成人先天性心疾患センター	"Half-uncovered technique" to secure larger stents for postoperative pulmonary vein stenosis	Cardiol Young. 2022 Aug;32(8):1327-1329. (オンライン)	Journal Article
123	Abe Kurumi, Momo Kenji, Abe Yoshifusa et al.	病院薬剤学	Simple determination of urine cefazolin concentration in pediatric patients with urinary tract infections using high-performance liquid chromatography	Biomed Chromatogr. 2022 Dec;36(12):e5495. (オンライン)	Journal Article
124	Abe Kurumi, Momo Kenji, Oto Yuji et al.	病院薬剤学	Negative effects of rivaroxaban observed in a patient with multiple common risks triggered by a bicycle accident	Clin Case Rep. 2023 Jan 20;11(1):e6748. (オンライン)	Case Report
125	Hoshi Akane, Momo Kenji, Yamazaki Kimiyasu et al.	病院薬剤学	Tolvaptan for Hyponatremia Induced by Chemotherapy With Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil	Am J Ther. 2022 May-Jun 01;29(3):e380-e383. (オンライン)	Letter
126	Ichimura T, Ogawa C, Murata H et al.	病院薬剤学	Community pharmacists' measurement of health-related quality of life in outpatients taking high-risk drugs	Pharmazie. 2022 Jun 1;77(6):202-206.	Journal Article
127	Ichimura Takenori, Nomura Hisanaga, Shimizu Hisanori	病院薬剤学	Community pharmacists' measurement of health-related quality of life for breast cancer with positive hormone receptors: A prospective observational study	SAGE Open Med. 2023 Mar 31;11:20503121231164491. (オンライン)	Journal Article
128	Ichimura Takenori, Ichikura Daisuke, Hinata Miwa et al.	病院薬剤学	Thyroid dysfunction with atezolizumab plus bevacizumab after lenvatinib in hepatocellular carcinoma: A case series	SAGE Open Med Case Rep. 2023 Mar 29;11:2050313X231164488. (オンライン)	Case Report
129	Inagaki Takahito, Sato Miki, Kin Masaoki et al.	病院薬剤学	Predictive Factors of Febrile Neutropenia After Primary Prophylactic Pegfilgrastim With DCF Chemotherapy for Esophageal Cancer	Anticancer Res. 2022 Dec;42(12):6071-6081.	Journal Article
130	Kitahara Kanayuki, Momo Kenji, Nimura Satomi et al.	病院薬剤学	A Case of Cerebral Infarction During Treatment With Rivaroxaban for Venous Thromboembolism	Am J Ther. 2022 Nov-Dec 01;29(6):e673-e676. (オンライン)	Case Report
131	Nagai Tsutomu, Kurihara Tatsuya, Koya Hiroaki et al.	病院薬剤学	Identification of factors associated with the efficacy of atomoxetine in adult attention-deficit/hyperactivity disorder	Neuropsychopharmacol Rep. 2022 Sep;42(3):249-255. (オンライン)	Journal Article
132	Nakatani Kaori, Momo Kenji, Mimura Takashi et al.	病院薬剤学	Acute kidney injury in villous cancer patients treated with vancomycin and tazobactam/piperacillin	Clin Case Rep. 2022 Aug 3;10(8):e6081. (オンライン)	Case Report
133	Nimura Satomi, Kitahara Kanayuki, Ueshima Kazuyo et al.	病院薬剤学	Potential drug-drug interaction between tolvaptan and warfarin in a geriatric patient with heart failure	Clin Case Rep. 2022 Apr 4;10(4):e05592. (オンライン)	Case Report
134	Nio Yuta, Ishida Hiroo, Matsumoto Natsumi et al.	病院薬剤学	Pharmacokinetics of gefitinib in elderly patients with EGFR-mutated advanced non-small cell lung cancer: a prospective study	BMC Pulm Med. 2022 Nov 30;22(1):454. (オンライン)	Journal Article
135	Takata Eriko, Kitahara Kanayuki, Tanaka Nao et al.	病院薬剤学	Development of Drug-Induced Interstitial Lung Disease After More Than 4-Years Treatment With Edoxaban: A Case Report	Am J Ther. 2023 Jan-Feb 01;30(1):e77-e80. (オンライン)	Case Report
136	Takuma Akitoshi, Inoue Erika, Momo Kenji et al.	病院薬剤学	Failure of liposomal amphotericin B therapy in patients with severe pancreatitis complicated by Candida lusitanae infection	J Infect Chemother. 2023 Feb;29(2):208-211.	Case Report
137	Tanaka Michiko, Sugita Hideki, Morita Jun et al.	病院薬剤学	Efficacy of perioperative oral cefcapene pivoxil for surgical site infection prophylaxis in patients with urological diseases	Showa Univ J Med Sci. 2022 Sep;34(4):209-214. (オンライン)	Journal Article
138	Tokunaga Megumi, Nawata Shuichi, Komoto Takayuki et al.	病院薬剤学	Five cases of skin desquamation due to bevacizumab combined with docetaxel-carboplatin in ovarian cancer	Int Cancer Conf J. 2022 Sep 25;12(1):49-52. (オンライン)	Case Report
139	Yonezawa Ryo, Shimamoto Kazushi, Kabasawa Nobuyuki et al.	病院薬剤学	A case of blood triglyceride increased induced by ABVD therapy for classical Hodgkin lymphoma	Leuk Res Rep. 2023 Feb 25;19:100365. (オンライン)	Case Report
140	Yonezawa Ryo, Sunaga Tomiko	病院薬剤学	Signal of safety due to adverse drug reactions induced by tacrolimus with or without azithromycin	Transpl Infect Dis. 2022 Jun;24(3):e13833. (オンライン)	Journal Article
141	Nakano Ryota, Momo Kenji, Matsuzaki Airi et al.	薬剤部	Irinotecan-induced severe hypotension in a patient with lung cancer	Clin Case Rep. 2022 Apr 21;10(4):e05718. (オンライン)	Case Report
142	Hamada Hirotaka, Fujii Tomoki, Kittaka Daisuke et al.	放射線技術部	Dual Energy CT for determining the severity of acute pancreatitis	Showa Univ J Med Sci. 2023 Mar;35(1):11-18. (オンライン)	Journal Article

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容	
①審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について	
②審査申請のための事前準備について	
③審査申請に必要とされる書類について	
④申請書類の作成について（参照すべき指針を含む）	
⑤申請から審査・承認までの流れについて	
⑥申請から研究実施までのフローチャート	
⑦研究計画の経過報告及び終了報告について	
⑧重篤な有害事象及び不具合への対応について	
⑨研究計画に伴って発生した苦情の窓口について	
⑩昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年24回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ①利益相反の定義 ②利益相反マネジメントの対象者 ③利益相反マネジメントの対象範囲 ④利益相反委員会について ⑤利益相反審議等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年23回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<p>・研修の主な内容</p> <p>(1) 最新のトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・倫理指針変更のポイント</li><li>・個人情報保護の改正</li><li>・昭和大学の研究倫理体制の変更</li></ul> <p>(2) 研究倫理に関する重要事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>2-1研究に関わる不正行為</li><li>2-2研究者等の基本的な責務</li><li>2-3臨床研究の倫理原則</li><li>2-4インフォームド・コンセント</li><li>2-5研究計画の原則</li><li>2-6データの採取・収集について</li></ul> <p>(3) 臨床研究の審査申請に関する説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>3-1臨床研究の区分</li><li>3-2第三者による倫理審査</li><li>3-3昭和大学における倫理審査体制/倫理審査受付システムの変更</li><li>3-4利益相反 (COI) の管理</li><li>3-5定期報告・終了報告</li><li>3-6研究試料・情報の保管</li></ul> <p>(4) 昭和大学の研究(支援)体制の説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>4-1【昭和大学統括研究推進センター (SURAC : Showa University Research Administration Center)】の体制について</li><li>4-2臨床研究アドバイザーについて</li><li>4-3SURACのデータ管理室業務</li></ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修修了後、各診療科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。

特に内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。臨床研修修了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例全ての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテーションを義務付けており、臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	184人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	准教授	26年	
矢嶋 宜幸	リウマチ・膠原病内科	教授	24年	
山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	34年	
本田 浩一	腎臓内科	教授	31年	
吉田 仁	消化器内科	教授	37年	
服部 憲路	血液内科	教授	20年	
新家 俊郎	循環器内科	教授	30年	
角田 卓也	腫瘍内科	教授	34年	
時松 一成	感染症内科	教授	32年	
横山 和彦	緩和医療科	准教授	33年	
武井 秀史	呼吸器外科	教授	30年	
青木 淳	心臓血管外科	教授	38年	
青木 武士	消化器・一般外科	教授	29年	
村上 雅彦	食道外科	特任教授	41年	
林 直輝	乳腺外科	教授	23年	
渡井 有	小児外科	教授	32年	
水谷 徹	脳神経外科	教授	38年	
工藤 理史	整形外科	教授	22年	
笠井 史人	リハビリテーション科	教授	32年	
高木 信介	形成外科	准教授	21年	
関沢 明彦	産婦人科	教授	33年	
水野 克己	小児科	教授	35年	
嶋根 俊和	耳鼻咽喉科	教授	27年	
猪又 直子	皮膚科	教授	29年	
深貝 隆志	泌尿器科	教授	37年	
扇谷 芳光	放射線科	教授	28年	
伊藤 芳紀	放射線治療科	教授	28年	
大江 克憲	麻酔科	教授	33年	

小谷 透	集中治療科	教授	36年	
土肥 謙二	救命救急科	教授	36年	
垂水 庸子	救急診療科	准教授	22年	
矢持 淑子	臨床病理診断科	教授	32年	
山口 麻子	病院歯科	講師	28年	
富田 英	小児循環器内科	特任教授	44年	
宮原 義典	小児心臓血管外科	教授	24年	
村上 秀友	脳神経内科	教授	24年	
恩田 秀寿	眼科	教授	23年	
高塩 理	精神神経科	准教授	25年	
相良 博典(代)	東洋医学科	教授	35年	
岡 秀一郎	歯科麻酔科	准教授	40年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

<事務部> ※2～4の研修は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

1. がん診療に関わる医師に対する緩和ケア研修会
2. 救命救急センター業務研修
3. がん医療研究会
4. がん医療セミナー
5. N S T勉強会

<看護部>

1. 新人看護師研修会
2. プリセプター研修
3. チームリーダー研修
4. 新人教育責任者研修
5. 卒後2年目研修
6. 看護師中途採用者・学内異動研修
7. ナースヘルパー研修
8. クリニカルラダー別研修（eラーニングを除く）
9. 新任係長研修

<臨床工学室>

1. 医療機器定期講習会
2. 新人看護師研修会
3. ローカル講習会
4. 医療機器新規導入時研修会

<薬剤部>

1. 新規採用薬研修
2. 薬物療法セミナー
3. 新任薬剤師（臨床研修薬剤師）研修

<臨床病理検査室>

1. 新入職員研修会
2. 外部精度管理報告会
3. 部内勉強会

<放射線技術部>

1. 防災講義
2. ルミネスバッジ着用者教育訓練
3. 放射線治療関連機器安全使用のための定期研修
4. ヨウ素125密封小線源治療による前立腺永久挿入治療に係る安全取り扱いの教育訓練
5. 放射線技術部研修会
6. 造影剤取り扱い研修会

・研修の期間・実施回数

<事務部>

1. 1日・年2回
2. 1日～20日・年11回
3. 1日・年1回
4. 1日・年3回
5. 1日・年3回

<看護部>

1. 1日・年14回、半日・年8回、80分・年2回、90分・年3回、120分・年4回
2. 半日・年1回、1時間・年3回
3. 1時間・年4回
4. 年1回
5. 年1回
6. 1日・年1回
7. 1日・年1回
8. 年38回
9. 年1回

<臨床工学室>

1. eラーニング・年2回
2. 1日・年1回
3. 1日・年8回
4. 1日・年56回

<薬剤部>

1. eラーニング・年6回
2. eラーニング・年10回
3. eラーニング・年36回

<臨床病理検査室>

1. 半日、年1回
2. 1.5～2時間、年2回
3. 1時間、年2回

<放射線技術部>

1. 1日・年1回
2. eラーニング・年1回
3. eラーニング・年2回
4. eラーニング・不定期開催
5. 1日・年5回
6. 1日・年2回

・研修の参加人数

< 事務部 >

1. 24人
2. 中止
3. 中止 (R5年度～再開予定)
4. 中止 (R5年度～再開予定)
5. 中止

< 看護部 >

1. 125名
2. 125名
3. 83名
4. 27名
5. 66名
6. 17名
7. 150名
8. 849名
9. 15名

< 臨床工学室 >

1. 3890名
2. 144名
3. 169名
4. 494名

< 薬剤部 >

1. 79名
2. 79名
3. 11名

< 臨床病理検査室 >

1. 13名
2. ①50名 ②54名
3. ①42名 ②37名

< 放射線技術部 >

1. 41名
2. 57名
3. 73名 (医師10名、看護師7名、医学物理士1名、診療放射線技師55名)
4. 19名
5. 132名
6. 93名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容</li> <li>・ 研修の期間・実施回数</li> <li>・ 研修の参加人数</li> </ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容</li> <li>・ 研修の期間・実施回数</li> <li>・ 研修の参加人数</li> </ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 相良 博典	
管理担当者氏名	管理課長 秋山 好司、クオリティマネジメント課長 浅川 悦久 医事入院課長 小川 孝行、医事外来課長 赤須 文	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	管理課
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
			電子カルテの情報は医療情報室に申請手続きをしないと抽出できない運用となっており、個人情報とは原則的に付与されないこととなっている。 また診療録（紙カルテ・フィルム）については、外来診療録は1患者1ファイル、入院診療録は1入院1カルテ、フィルムは1患者1ジャケット単位にファイリングし、それぞれ外部委託倉庫に保管している。 これら診療録等の院外持ち出しについては禁止している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事入院課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事入院課
		高度の医療の研修の実績	管理課
		閲覧実績	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事外来課、医事入院課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者数：医事課 調剤数：薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の医療安全対策基本マニュアル内に保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部門
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部門
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門		
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	管理課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 相良博典
閲覧担当者氏名	管理課長 秋山 好司 クオリティマネジメント課長 浅川 悦久 医事入院課長 田邊 聡 医事外来課長 布村 順一
閲覧の求めに応じる場所	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課
閲覧の手続の概要	
病院長宛での依頼文書に基づき、担当部署から依頼者へ手続き等の連絡を行い、閲覧を許可する	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件
閲覧者別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目的</li> <li>2) 基本的な考え方</li> <li>3) 適用範囲</li> <li>4) 主管部署</li> <li>5) 医療安全に係る職員の責務</li> <li>6) 用語の定義</li> <li>7) 医療安全管理のための体制確保</li> <li>8) 医療安全に係る管理者の配置</li> <li>9) インシデント・アクシデントの院内報告制度</li> <li>10) インシデントの対応</li> <li>11) 医療事故(アクシデント)の対応</li> <li>12) インシデント・アクシデントの分析や症例検討の実施およびその対策・実行・評価</li> <li>13) 医療安全管理に係る研修について</li> <li>14) 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針</li> <li>15) 医療安全情報の非開示</li> <li>16) 患者からの相談への対応</li> <li>17) その他医療安全の推進に必要な基本方針</li> <li>18) 医療安全体制の監査</li> </ol> <p>高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ( 有・無 )</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集、分析、企画・立案、実行・周知及び評価・改善</li> <li>2) 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための指針の整備</li> <li>3) 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のためのマニュアル等の整備</li> <li>4) 重大な医療事故等が発生した場合には速やかに調査を行い、原因の究明(分析)及びその対応(改善策の実施)を行う。その対応についての職員周知</li> <li>5) 前項(4)において実施された対応について必要に応じて調査と見直し</li> <li>6) 医療事故等の院内報告制度の整備</li> <li>7) 医療事故調査制度に係る対象事例の判断</li> </ol> <p>その他、医療事故に関するすべて(訴訟も含む)の事項を検討し、適切かつ速やかな対策の検討</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 活用しよう！ポケットマニュアル</li> <li>2) 急病者未然防止システムについて</li> <li>3) 医療放射線に係る安全管理について</li> <li>4) 当院の医療安全管理体制について</li> <li>5) 除細動器基礎編</li> <li>6) 個人情報保護について</li> <li>7) 医療用ガスについて</li> </ol> <p>受講対象者：1,951人 受講者数：1,951人 受講率100%</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

各部署内でインシデント、アクシデント事例は、各部署の所属長、セーフティマネジャー及び関係者による分析、改善策が検討されインシデント及び状況報告書で医療安全管理部門に報告される。医療安全管理部門としては、報告されたインシデントレポートは医療安全管理者が全件閲覧し、患者に与えた影響度、発生頻度、組織としての対応や情報共有の必要性を考慮し、カテゴリーに分類して抽出する。事例によっては、医療安全主導で症例検討会(年50件程度)を開催し、また年2回程度M&Mカンファレンスも開催し、インシデント防止を目的とした運用案を立案する。その結果は医療安全管理・対策委員会に報告される。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な考え方</li> <li>2. 病院感染防止の体制確保 (委員会・部門・ICT・ASTの設置、神瀬管理者・感染リクドクター・感染リクナーズの配置)</li> <li>3. 病院感染等の院内報告制度</li> <li>4. 病院感染等の発生時に対応</li> <li>5. 職員教育(職員研修の実施)</li> <li>6. その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査</li> <li>2. 職業感染予防に関連した安全機材や個人防護具の選定、ワフソフガラムの推進、接触者検診の検討</li> <li>3. 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告</li> <li>4. ICT環境ラウンドとAST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド実施と改善状況の報告</li> <li>5. 講習会の開催案内</li> <li>6. マニュアル、指針、委員会規程の見直しと改訂について検討</li> <li>7. 厚生労働所や東京都からの法令改定、通知、感染症情報の共有</li> <li>8. アウトブレイク発生時の要因調査と分析、感染予防策の立案、情報共有</li> <li>9. 相互ラウンドや地域連携カンファレンスの報告</li> <li>10. 手洗いキャンペーンの実施</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年6回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新型コロナウイルス感染症と標準予防策</li> <li>2. 標準予防策：手指衛生</li> <li>3. 抗菌薬適正使用</li> <li>4. 薬剤耐性菌対策</li> <li>5. 内服抗菌薬の適正使用</li> <li>6. 新型コロナウイルス感染症～オミクロン感染予防と濃厚接触について～ 受講対象者：2,286人 受講者数：2,286人 受講率100%</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。アウトブレイクと判断した場合は東京都福祉保健局と管轄保健所、私立医科大学病院感染対策協議会事務局に報告と相談を行う。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生時の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援やプロセス評価、アウトカム評価とフィードバックを継続している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： e-ラーニング：医薬品の適正使用について（全員対象） 受講対象者：1,857人 受講者数：1,857人 受講率100%</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 （ 有・無 ）</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 週に一度、病院管理者と医療安全の各担当者による巡視を実施。巡視の時に手順書の内容に沿ったチェックリストを使用し、実施状況を確認。問題があればその場でフィードバックを行っている。問題点は1週間後に再度改善状況を確認している。また病棟担当薬剤師による上記チェックリストに沿った確認を月に1度実施し、その結果を医薬品安全管理責任者が確認している。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：  <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;未承認薬&gt;</li> <li>・ 脳神経外科手術全般における滅菌1%ピオクタニンブルー液の使用</li> <li>&lt;適応外使用&gt;</li> <li>・ BCG膀胱内注入療法に抵抗性な筋層非浸潤性膀胱がんに対するゲムシタビン膀胱療法</li> <li>・ 高濃度カリウム製剤による低カリウム血症の補正</li> <li>・ 免疫関連有害事象（腸炎）に対するインフリキシマブ投与 など</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟定数配置薬の見直しと新運用の開始</li> <li>・ 高濃度カリウム製剤の運用開始</li> <li>・ ピルシカイニド調剤時の腎機能チェック など</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年138回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>・ 医療機器定期講習会</li> <li>・ eラーニング①（除細動器基礎編）1回</li> <li>・ eラーニング②（生体情報モニターアラーム、除細動器操作方法）1回</li> <li>・ 新人看護師研修会 2回</li> <li>・ ローカル講習会 8回</li> <li>・ 医療機器新規導入時研修会 54 回</li> <li>・ その他 72 回</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メーカー推奨の定期点検</li> <li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置</li> <li>・ 人工呼吸器</li> <li>・ 血液浄化装置</li> <li>・ 除細動器</li> <li>・ 閉鎖式保育器 など</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 保・無 ）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PMDA及びメーカーからの安全性情報の収集</li> <li>・ 医療機器安全NEWSの発行</li> <li>・ 医療機器安全管理責任者による定期巡視</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>院内および院外における医療安全管理情報の把握と各医療安全関係管理者への指示・監督を行っている。原則毎週、医療安全管理部門員で集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の副作用、医療機器の不具合等の情報共有およびそれらに関する対策および再発防止策について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（11名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>薬剤部医薬品情報室にて集約、整理される。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>薬剤部医薬品情報室担当者より随時報告される。医薬品の使用、採用申請状況は、医薬品安全管理責任者が薬剤部医薬品情報室にて週1回行われるミーティングに出席し共有。また毎日のインシデント事例報告より情報収集。以上の中から対策が必要と判断した場合は対策の立案と実施。</p> <p>【院内周知】</p> <p>医薬品安全管理責任者は情報の緊急性・重要性を判断し院内周知を医薬品情報室に依頼し、月2回発行のDIニュースや各診療科へのメール、電子カルテへの掲載を以って院内周知を行うが、医療安全ニュース（最低月1回）にて医療安全管理部門から発信する場合もある。また、PMDAへの副作用報告や院内採用品の自主回収等の情報は、医薬品安全管理責任者が週1回の医療安全定例会にて報告する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>病棟担当者からの報告、医薬品情報管理室への問い合わせ等により未承認薬等の使用に関する相談を受けた場合、まず必要性和緊急性を確認し、代替薬の検索・提案を行う。代替薬が無い場合には、委員会への申請の必要性を判断し、必要なら申請を依頼。同時に担当者に依頼し、妥当性・有効性・安全性・経済性の観点から情報の収集・整理を行う。これらの情報を随時、医療安全管理部門と共有し、その情報を基に委員会にて審議を行う。使用開始後は、申請科・病棟担当者と共同して有効性の確認と有害事象をモニタリングする。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者の指名の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> <li>( 所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 ) ( 所属： ， 職種 )</li> <li>( 所属： ， 職種： ) ( 所属： ， 職種 )</li> <li>( 所属： ， 職種 ) ( 所属： ， 職種 )</li> <li>( 所属： ， 職種 ) ( 所属： ， 職種 )</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：説明・同意書の量的点検において、規定に定められた事項の遵守状況を確認する。</li> </ul> <p>また、診療録管理室運営委員会を通して、患者への説明内容、説明・同意書の記載内容、同席者の規程について指導する。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</li> </ul> <p>無作為抽出による診療録監査を実施して、診療録の記載内容を確認する。また、その結果を診療録管理室運営委員会および病院運営委員会で報告し指導するとともに、当該診療科にフィードバックすることにより改善を促している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専従（3）名、専任（5）名、兼任（18）名 <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（7）名</li> <li>うち薬剤師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（0）名</li> <li>うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（2）名</li> </ul> </li> <li>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全のガバナンス体制の推進及び整備に関すること。</li> <li>(2) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集及び分析、評価に関すること。</li> <li>(3) 医療事故に関する報告窓口業務に関すること。</li> <li>(4) 医療事故に関する初期情報収集と対応。</li> <li>(5) 医療事故等の原因究明及び診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分にされている事の確認を</li> </ol> </li> </ul>	

行うとともに必要な指導を行うこと。

- (6) 医療の質の維持・向上並びに医療事故の防止、安全管理のための職員への教育・研修の企画・立案及び実行、周知徹底業務。
- (7) 医療安全に関する連絡調整に関すること。
- (8) 医療の質の維持・向上並びに医療事故に関する書類等の確認及び必要な指導に関すること。
- (9) 医療事故発生時の患者及び家族への説明等の対応状況を確認し必要な指導を行うこと。
- (10) 所管する会議等の資料及び議事録の作成と保存、並びに会議の業務に関すること。
- (11) 訴訟に関する業務(事務)
- (12) 当該事故関係医療従事者を支援すること(精神的サポート体制)
- (13) 院内の全死亡事例の監査
- (14) 内部通報窓口の運用に関すること。
- (15) 高難度新規医療技術の評価及び管理(運用については別に定める)。
- (16) 未承認新規医薬品等の評価及び管理(運用については別に定める)。
- (17) 診療録管理室と連携し、インフォームド・コンセント及び診療記録の質に関する監査に資すること。
- (18) インシデントレベルに関係なく重要な検討が必要な事例については症例検討会を行うこと。
- (19) 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

#### ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（27件）、及び許可件数（24件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - (1) 高難度医療技術の新規導入に関する適否等の評価及び管理
  - (2) 高難度医療技術の新規・変更申請窓口業務

(3) 高難度医療技術を適用した全症例の管理

(4) 高難度新規医療技術評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (31 件) 、及び許可件数 (28 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  ・ 無 )
- ・ 活動の主な内容 :
  - (1) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用に関する適否等の評価及び管理
  - (2) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用の新規・変更申請の窓口業務
  - (3) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用した全症例の管理
  - (4) 未承認新規医薬品等評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 776 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 37 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

原因の分析及び再発防止策を立案し、医療安全管理部門に実施の指示をする。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  (病院名 : 獨協医科大学病院) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  (病院名 : 獨協医科大学病院) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況 : なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 1) 電話相談及び窓口相談（総合相談窓口）
- 2) 投書箱

相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長と院内責任者へ報告する。内容によっては各種委員会にて検討し対応策の検討を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記、「規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」の③「医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」に記載の通り

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】2021年12月8日

2021年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医療安全管理責任者】2021年12月8日

2021年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医薬品安全管理責任者】①2022年2月2日 ②2022年1月22日

①2021年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

②令和3年度医薬品安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会

【医療機器安全管理責任者】2022年1月19日

2021年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

平成 29 年より年 2 回、外部監査委員による昭和大学病院医療安全外部監査委員会を実施している。  
令和 3 年 12 月日本医療機能評価機構 病院機能評価受審

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

監査結果は昭和大学病院ホームページにて公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

特になし。（外部監査委員・病院機能評価の評価で問題となるような指摘事項なし。）

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医師であること</li> <li>(2) 心身ともに健全にして人格高潔であること</li> <li>(3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること</li> <li>(4) 医療の高度の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること</li> <li>(5) 診療及び臨床教育・研究についての識見を有すること</li> </ul> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院ホームページ</li> </ul> </li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 病院ホームページ</li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小口 勝司	学校法人昭和大学理事長	○	理事長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
小風 暁	昭和大学医学部長		医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
吉田 仁	昭和大学内科学講座 消化器内科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
新家 俊郎	昭和大学内科学講座 循環器内科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
青木 武士	昭和大学外科学講座 消化器一般外科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
三邊 武幸	学校法人昭和大学理事		理事会から推薦された理事1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
越石 孝一	一般社団法人日本私立 医科大学協会監事		理事会から推薦された外部有識者2名の内1名	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
成田 光男	荏原七丁目町会会長 品川区荏原第二地域センター 管内区政協力委員		理事会から推薦された外部有識者2名の内1名	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容 病院の経営及び運営の方針、経営目標の設定及び管理、予算執行及び収支 病院における教育・研究、事業計画・中長期計画 等（管理会議・病院運営委員会）</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況 診療科長補佐会議において報告、学内情報共有基盤（WEB上）にて全病院職員に通知</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙参照			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法 病院ホームページ
- ・ 規程の主な内容
  - (1) 経営に関すること
    - ア 事業計画、予算の立案及び執行
    - イ 収支の掌握及び改善
  - (2) 診療に関すること
    - ア 診療体制及び診療科の管理
    - イ 患者サービス
  - (3) 医療安全・感染管理に関すること
  - (4) 病院の業務管理に関すること
  - (5) 病院職員の教育・研究に関すること
  - (6) 人事管理に関すること
  - (7) コンプライアンスに関すること
  - (8) その他病院の管理・運営に必要なこと
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
4名の副院長にそれぞれ業務分担を行い、院長（管理者）をサポートする体制を整えている。  
（医療安全、感染管理、個人情報、労働安全管理、診療運営、患者支援、中央診療部門、  
地域連携、広報、救急、災害対策、外科系、内科系、研修医、臨床倫理・研究倫理、  
保険診療、職員教育研修 等）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全各責任者の業務の実施状況について確認する。</p> <p>理事長又は病院長に是正措置を講ずるよう意見する。</p> <p>監査結果をホームページで公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・ 公表の方法：昭和大学病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院病院長		医療に関する学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
附属病院機能評価調査委員会にて定期的に附属病院の評価・指導を実施
- ・専門部署の設置の有無（  ・無 ）
- ・内部規程の整備の有無（  ・無 ）
- ・内部規程の公表の有無（ 有 ・  ）
- ・公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院担当理事協議会とは別に病院長は執行役員として理事会に陪席し、病院業務に係る体制強化を実施している。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙参照			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 : 職員に配布しているポケットマニュアル</li></ul>

## 昭和大学病院・附属東病院 管理会議構成員

No.	委員長	氏名	職種	役職
1	○	相良 博典	医師	昭和大学病院長
2		村上 秀友	医師	昭和大学病院附属東病院長
3		三邊 武幸	医師	昭和大学病院・附属東病院 担当理事
4		小林 洋一	医師	昭和大学病院副院長
5		吉田 仁	医師	昭和大学病院副院長
6		大江 克憲	医師	昭和大学病院副院長
7		渡井 有	医師	昭和大学病院副院長
8		吉田 雅子	看護師	看護部長
9		嶋村 弘史	薬剤師	薬剤部長
10		田口 彰彦	事務員	事務部長
11		秋山 好司	事務員	管理課長
12		田邊 聡	事務員	医事入院課長
13		赤須 文	事務員	医事外来課長
14		布村 順一	事務員	東病院管理課長
15		浅川 悦久	事務員	クオリティマネジメント課長
16		村岡 真輔	事務員	管理課管理係長(陪席)
17		小林 達彦	事務員	学校法人昭和大学総務部総務課長(陪席)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要  ホームページに記載 ( <a href="http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html">http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html</a> )	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が1人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。	